



インド福祉村協会 会報

2000.2.1
Vol.5

India Welfare Village Society News

開院一周年インド福祉村病院

クシナガラ(北インド・UP州) 1999年11月2日

祝・一周年を迎えて

理事長 山本孝之(福祉村病院院長)

無事開院一周年を迎えることが出来ました。日本とインドの多くの人々に支援して頂いたお陰と深く感謝致しております。この一年間で二万五千名以上の患者が来院し、インドの人々に信頼され、愛される病院に育っております。日本政府(外務省)の援助による医療機器類も充実しつつあります。国際ボランティア貯金(郵政省)による無料結核治療も開始し、ポリオワクチン接種・妊婦相談・衛生生活指導も実施しており一歩一歩発展しております。日本の皆さまのご支援を切にお願い申し上げます。



(病院前に早朝から並ぶ患者)



(インド福祉村病院全景)

開業以来、鰻登りに患者さんが増えており、多くの難題を乗り越えてインドに福祉村病院を開設した甲斐があったと喜んでいきます。反面、患者さんの多い時は、その日の診療時間が終わっても、数十人の患者さんが残り、病院の前で野宿をして翌日の診療を待たれていることに心を痛めております。開業わずか年でこの盛況は、我々の予測をはるかに越えておりますが、ともかく、医師一人ではとても無理ですので、もう一人ドクターを採用すべく、現在人選中です。

クシナガラ地区では、感染症が多く、特に結核は非常に蔓延しており、また、乳幼児の死亡率も大変高いという状況です。そこで、先ず結核撲滅対策に力を入れ、二千年からは母子保険の指導も重点的に行いたいと考えております。その他、低栄養と重労働による障害も多く、インド福祉村病院に課せられた問題は山積みです。インドの現状を多くの日本人の方々にご理解いただくとともに、インドのボランティア体験もしていただきたいと考え、ツアーを計画していますのでご参加下さい。これからも、インドの人々の幸せと健康を守るため、みんなと力をあわせて進んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。



(ECG検査中)



(P-N・グプタ)

一周年の歩み

医師 P・Nグプタ

日本の皆さんの支援と私達職員の方々の努力で無事一年を迎えることが出来ました。遠距離の部落から来院する患者も増して、インドの人々に信頼されています。今後ともご協力の程よろしくお願いたします。

【来院患者データ】

【疾病(全来院患者の占める%)】

1	貧血症	30%	10	中耳炎	3%
2	寄生虫症	30%	11	高血圧症	2%
3	トリコモナス症	25%	12	気管支炎	2%
4	胃・十二指腸潰瘍	15%	13	結核炎	2%
5	急性ウイルス感染症	15%	14	結核	2%
6	気管支喘息	15%	15	マラリア	1%
7	下痢症	10%	16	ウイルス性肝炎	1%
8	栄養障害	5%	17	甲状腺腫	1%
9	骨関節症	5%	18	外傷	1%

【風土病的疾病】

- 1) フィラリア症 2) マラリア 3) チフス 4) ライ(ハンセン氏病)
5) カラアザール 6) 日本脳炎 7) アメーバ赤痢 8) 甲状腺腫
9) 狂犬病

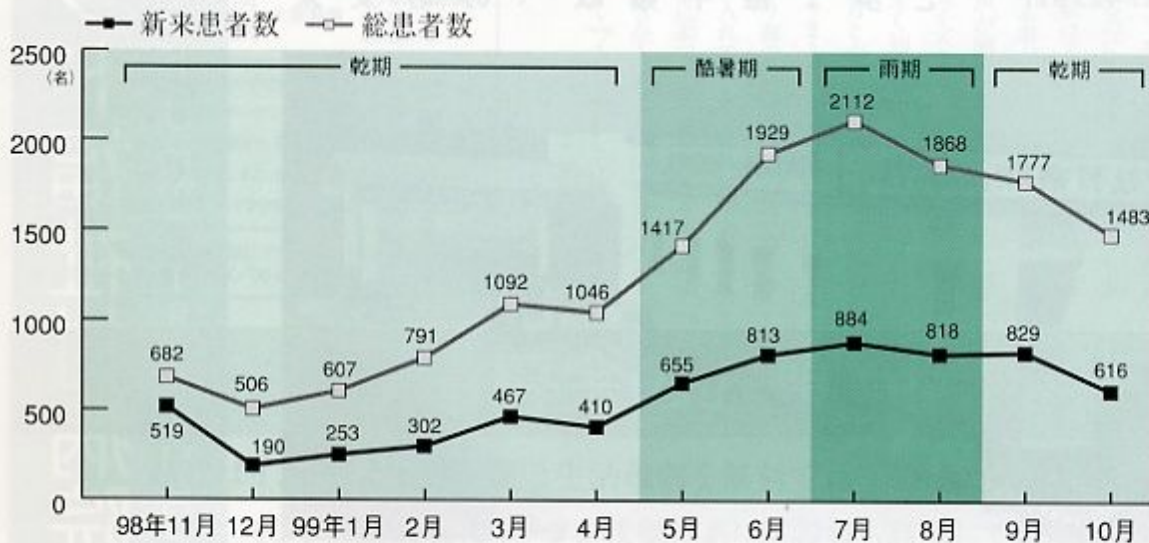
【患者数】

総患者……………15311名
新来患者………6759名
再来患者………855名

男性 36% 女性 64%
子供 10%

【来院距離】

3キロ以内……………20%
5キロ以内……………23%
10キロ以内……………20%
20キロ以内……………20%
30キロ以内……………13%
30キロ以上……………4%



患者数の推移



【現地住所】

ANANDA HOSPITAL
SIRASIA NEAR KUSHINAGAR
274403 UP INDIA

平成10年11月に診察を開始してから、丁度二年が経過しました。その間に病院を訪れた患者数は二万五千名余に達しました。病気の内容も様々でして、日本ではまったくない熱帯病や風土病の患者さんも数多く来院しました。(上記参照)

また病気の程度も高熱や衰弱の甚だしい人も毎日訪れました。更に目に付く点は、新患の人が44%を占めていることです。このことは他に医療施設がないことによるものと思われれます。この地に病院を建設して本当に良かったと痛感しております。

医療機器無しで、発電機を唯一のエネルギー源として開院した当初より、グプタ医師以下全スタッフは、本当に頑張って良い仕事をしてくれました。その甲斐あって病院の信頼度は極めて高いものになってきました。今後は更なる内容の充実に向上をはかり、地域の人々の期待に応えるべく努力しなければならぬと思っております。何卒皆様方の心からの御支援をこの紙面を借りてお願い申し上げます。次第です。

合掌

一年を顧みて

専務理事 柴田昌雄(愛知学院大客員教授)

地域医療活動

■妊婦相談■



(妊婦の相談に応じるスайтеイ)

インドUP州は妊婦死亡率、新生児死亡率とも高い地方で、インド政府から改善地域として指定されております。看護婦スайтеイの努力で部落の妊婦に面接し、体温・血圧・脈拍・体調・生活指導を行っております。出産は殆ど自宅で経験者の援助をうけて出産します。妊婦受診の経験は全くありませんから、怖がって家から出てこない妊婦もあります。いずれも病院での出産を希望しており、近い将来ぜひ分娩室を増築してほしいとスайтеイは熱望しております。

広報活動

■講演会・報告会

- ① 浜北市国際ボランティア貯金推進協議会
浜北市プラザホテル(郵政省後援)
1999年8月19日
- ② 郵政省ボランティア担当官研修会
東海郵政局(東海四県、郵政省)
1999年9月21日
- ③ 東三河NGO活動報告会
豊橋市商工会議所(東三河地区郵便局)
1999年10月30日

■展示会・募金活動

- ◎日本赤十字愛知短期大学 大学祭
- ◎豊橋、福祉村病院 文化祭
- ◎愛知学院大学 大学祭
- ◎東海郵政局 研修会

病院見学

南恵美子(テリイ日本人会婦人部)

インドの首都、ニューデリー在住の女性がメンバーのデリージャバニーズ・ボランティアグループが援助を始めたのはちょうど一年前の開院の時からでした。

今回一周年記念を終えた病院のスタッフアイツアを計画し6名が参加しました。ゴラプールまでは13時間余の夜行列車の旅、駅で大竹さんと救急車に迎えられ一時間半のドライブでクシナガラ病院が見えてきました。

到着後、待ち患者の横を通って診察室、隣の薬局兼会計を説明を受けながら見学。皆、与えられた任務を忠実に適確にこなし、長蛇の列の患者さんを次々にさばっていくといった感じ……。

ドクターによるとゴラプールにある鉄道病院より親切で丁寧な診療ということ、とても評判が良く何度も通う人も多いとの事です。

また、薬も殆ど原価で良心的、それでも支払えない人は処方日数を減らしたり、優先順位をつけて種類を減らしたりインドの農村地帯ならではの苦労も伺いました。

次の二つの部屋には外務省からの草の根資金にて購入した機器類が設置されており、これらの医療機器を使って、更に充実した最新の診療が二年目の課題だと強く感じました。

村の中では大竹さんに親しげに挨拶をして下さる村人も多く、病院の存在が地元の住民に受け入れられている成果を知る機会でもありました。

■生活改善教育■

- 1) 食事時の手洗い励行
- 2) 土間で寝ない、床上寝床
- 3) 井戸水の流れをよくする。
- 4) エイズ啓蒙、パンフレット配布
- 5) 家族計画指導

■ポリオワクチン接種■

WHOとインド政府による小児麻痺のポリオワクチン接種にアーナンダ病院も指定され実施しました。

1998

12月6日 78名

1999

1月17日 80名 11月21日 187名

3月14日 125名 12月26日 275名

10月17日 136名

2000

1月23日 今後予定/2月3月4月



(ポリオワクチン接種の様子)



(医療機器:X-P)

病院見学

降旗伸子(フリー日本人会婦人部)

私達6名はアーナンダ病院に11月17日に訪問させていただきました。大竹氏には7月の定例会でインド福祉村病院が出来るまでのエピソードや、苦労話を聞かせて頂いた時にとっても興味を持ち、今回の訪問はととても楽しみでした。ゴラブル駅には救急車でお出迎えくださり、搬送される気分を味わえたのは貴重な体験でした。

病院は畑の中の一見よく分からない場所に建てられておりましたが、小さな町なのに毎日60名以上の患者が来院し女性が大半を占めているのはびっくりしました。Dr.グブタ氏の献身的な診療と、大竹氏の地域に溶け込もうとする努力で、病院がインドの人達に貢献していることがよくわかりました。設備も支援金や草の根資金で少しずつ整っているようです。大竹氏の意気込みは心打たれるものがあり、更なる前進を多くの人に理解して欲しいと願っています。

ボランティア活動

山野井純子(学生)

1999年8月、私は再びアーナンダ病院を訪れました。一度目は2月に行ったのですが、6ヶ月間で病院の設備がほとんど改善されつつあるのに驚きました。スタッフも素晴らしい働きぶりです。私はスタッフに協力してもらいたい患者へのインタビュを進める事が出来ました。

インタビュでは生の声が聞けて発見の連続でした。一日三食の人が多いこと、エイズを知らない人が多いこと等、私が日本に居たときは全く知らなかった事ばかりでした。また、病気の症状が7ヶ月とか、3年前から続いていると訴える患者さんがあたりまえのように多いことに驚きました。「日本ではあたり前のこともインドでは当たり前ではない」これを頭に入れておかなければインドでは何を進めるにおいても壁にぶつかることでしょう。これは私がアーナンダ病院へ行き学んだことの一つです。インドと日本を比べるのではなく「インド」として接していければいいと思います。

インド福祉村協会のあゆみ

- 1987年5月 第1回インド福祉村病院建設委員会
- 1987年11月 現地視察(北インド・ブダガヤ地区)
- 1988年7月 募金活動開始
- 1991年9月 (財)国際協力推進協会 (APIC) 支援決定
- 1994年10月 病院建設地クシナガラ地区に変更
- 1995年4月 病院建設用地決定(クシナガラ)
- 1995年10月 現地法人アーナンダミッション設立
- 1996年10月 インド福祉村協会に名称変更
- 1997年1月 病院建築起工式
- 1997年6月 トヨタ財団より救急車寄贈
- 1998年3月 病院建物落成式
- 1998年11月 アーナンダ病院、診療開始
- 1999年2月 外務省草の根資金 署名式
- 1999年6月 郵政省国際ボランティア貯金署名式

スタディー ツアー募集 インドネパール奉仕活動の旅

2000年3月22日(水)～3月29日(水)【8日間】

旅行代金 (268,000円 大阪発着 最少旅行人員:15名 食事付き 朝6.昼8.夕6 学生258,000円)

1998年3月、日本の有縁の方々のかにより完成し、運営されているインド福祉村病院(現地名:アーナンダホスピタル)があります。その無料奉仕の病院で介護補助や、周辺の衛生指導、医療調査などの奉仕活動をいたします。また、悠久の歴史を持つ北部インドとネパールの遺跡を探訪しヒマラヤを眺望する旅です。

- クシナガラ(インド福祉村病院)にてボランティア活動
- 連絡先(トラベルサライ)・K.K./06-6232-3012

募金のお願い!

私達はインドの人々に医療と生活改善を無料で行うことを目的としております。

インドは最近特にインフレ状態にあり建設費も高騰しております。

建設後も医療器具、備品、運営費に相当不足が見込まれます。

みなさんにお寄せいただいた善意はAPIC(国際協力推進協会)事業団を通じて

インド・アーナンダ協会に寄付され活動に使わせていただきます。

少しでもあなたの善意を分けて下さい。

寄付先/住友銀行 東京公務部 普901404(財)国際協力推進協会「ブダガヤ病院建設」口
問い合わせ先/インド福祉村協会事務局

■募金/別紙銀行振り替え用紙にて上記口座へご送金下さい。この募金については税法上の優遇措置がとられます。確定申告時にご提出下さい。

■賛助会員/1,000円(1口以上) ■維持会員/5,000円(年間1口以上) ■特別会員/100,000円(1口以上)
※郵便振込の場合、別紙郵便振込用紙にてご送金下さい。【口座番号】00830-2-65008 —インド福祉村協会—

インド福祉村協会(INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

会長/飯島宗一(元名古屋大学学長) 理事長/山本孝之(福祉村病院院長)
専務理事/柴田昌雄(愛知学院大客員教授) 理事/高木元晃(慈専寺住職)
ほか

■発行者 インド福祉村協会(IWVS)
■発行人 大竹紘一 ■編集協力 文創社
■インド福祉村協会事務局
〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-12
TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365